

四箇法要

『花びらは散っても花は散らない』

うみぎりさんだん

うみぎりえこう

附 宮内康乃 作曲 《海霧讃歎》《海霧廻向》

一関文化センター開館四十周年記念事業

しょうみょう

聲明コンサート

祈りの聲

こえ

その神秘の響きは

慰め 癒し 希望

総勢26名の僧侶が奏でる“声”の芸術

出演 声明の会・千年の聲「七聲会(天台聲明)、迦陵頻伽聲明研究会(真言聲明)」
構成・演出 田村博巳

2025 **3/1 (土)** 一関文化センター大ホール

15:00 開演 (14:15 開場)

岩手県一関市大手町 2-16 (「JR一関駅」西口より徒歩約7分)

《チケット》1階席 一律 5,000 円 / 2階席 大人 4,000 円、小中高生 2,000 円

※ 出演者が1階席の通路を歩く演出があります。2階席からは見えにくい場合がございますので、予めご了承ください。

※ 当日各 500 円増 ※ 未就学児童の入場はできません ※ 車椅子席 3 席有り。ご利用希望の方は当センター窓口・電話にてお申込みください。

チケット発売開始：12月19日(木) 9:00- インターネット・電話予約、10:30- 文化センター窓口発売

プレイガイド：一関文化センター / 小原書店(一関市大東町) / 文化センターインターネットチケット(24 時間)

一関文化センター Tel 0191-21-2121

お問合わせ

(受付時間 8:30 - 17:15 / 第3月曜・年末年始は休館)

主 催

協 賛

制作協力

NPO 法人一関文化会議所

ALSOK 岩手管財株式会社

NPO 法人魁文舎・エボニーアンドアイボリー合同会社



インターネット予約

聲明コンサート 祈りの聲

僧侶が唱えるお経に旋律が付いた「聲明」は、安寧や平和、また、鎮魂を祈る声の芸術です。

もともと聲明は、古代インドの学問のひとつ「言葉の学問」を指していました。一方中国や朝鮮では聖歌を意味する梵唄と呼んでいましたが、日本ではそれらが一緒になり、鎌倉時代初期から「聲明」という言葉が使用されるようになりました。日本において聲明は能や浄瑠璃、落語など、日本の古典芸能のルーツにもなっています。

本公演で唱えられる、仏の教えから導かれた四箇法要「唄」「散華」「梵音」「錫杖」は、死者である仏との対話によって成立しており、おのずから生者のこのころの支えとなっていくことに気が付きます。そして、宮内康乃さんが作曲した『海霧讃歎』を中心部に、『海霧廻向』を終局に据え、1200年の時間を融合し現代に生まれた聲明曲が人々の不安やこころの苦しみを癒す祈りの響きを奏でます。

四箇法要『花びらは散っても花は散らない』は、被災された方を励まし、亡くなられた方に鎮魂の祈りを捧げ、東日本大震災で起きたことを風化させずに世代を超えて語りつなげることをこの演唱をとおして願います。

出演は、「聲明」の二大潮流を成す真言宗・天台宗の宗派を越えて結成された、「声明の会・千年の聲」。

神秘の響きに包まれ、込められた想いと祈りに触れることで、明日への活力を生み出すことでしよう。

* 四箇法要『七五二年東大寺大仏開眼供養のときに唱えられた最古の聲明』

プロフィール

声明の会・千年の聲

[七聲会(天台聲明)・迦陵頻伽聲明研究会(真言聲明)]

1200年の伝統を誇る日本の音楽の貴重な財産である「聲明」。その伝統の継承と発展を目的に、1997年、日本の聲明の二大潮流を成す真言宗・天台宗の指導者が宗派を越え「聲明四人の会」を結成。後、名称を「声明の会・千年の聲」と改める。98年から2016年まで東京・青山のスパイラルホールで毎年定期公演を開催し、古典作品の紹介と優れた作曲家に委嘱する新作聲明を多数発表する。2014年には9・11テロ鎮魂の曲「存亡の秋」を、ニューヨークを始めとするアメリカ3都市で巡演し大きな感動を呼んだ。聲明のもつ伝統の深さと現代への可能性を追求し今日に至る。CDリリースに『阿吽の音』、『存亡の秋』（鳥養潮作曲／(財)ビクター伝統文化振興財団）、DVDに『月の光言』（桑原ゆう作曲／声明の会・千年の聲）がある。

宮内康乃 (作曲家)

東京学芸大学G類音楽科作曲専攻卒業。I A M A Sメディア表現研究科(修士)修了。人間の呼吸や身体といった根源的な要素から響きを訪ぎ出していく独自の作曲法にて、主宰する音楽パフォーマンスグループ「つむぎね」での活動をはじめ、聲明、邦楽や、ガムランなどアジアベースの新しい表現の創作や、声のワークショップ活動を国内外で多数展開している。

田村博巳 (演出家)

慶応義塾大学文学部社会学科卒業。民俗芸能、雅楽、聲明(仏教音楽)を中心に日本の伝統芸能公演を国立劇場、静岡音楽館A O Iで企画制作し、民俗儀礼や口頭伝承の研究に立脚した創作を舞台芸術作品として構成演出する。また、伝統芸能の継承・発展とともに、作曲家等と協働して伝統の素材を現在の視点でとらえた意欲的作品をスパイラル聲明コンサートシリーズ「千年の聲」、神奈川県立音楽堂「音楽堂で聴く聲明」等で数々発表している。

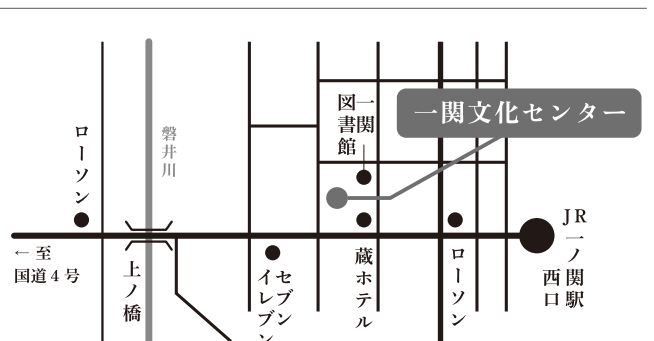
- 唄
- 散華
- 梵音
- 《海霧讃歎》2012
- 錫杖
- 後唄
- 合殺
- 般若心経
- 三句念仏・甲念仏
- 《海霧廻向》2021

プログラム

はじめての「聲明」講座

聲明とは? から始まり、本公演で演奏される《海霧讃歎》《海霧廻向》作曲の由来・秘話を教えていただく講座です。歌唱体験も交え、本公演に先駆けて聲明の世界をお楽しみください。

開催日 2025年2月2日(日) 14:00～ (13:30～入場開始)
 会場 一関文化センター小ホール
 料金 無料
 定員 50名 (申込先着順)
 講師 田村博巳氏 (演出家)、宮内康乃氏 (作曲家)
 申込 戸部憲海氏 (迦陵頻伽聲明研究会)
 2025年1月9日(木) 9:00～
 電話(0191-21-2121)・窓口にて受付



※ 当日は駐車場が大変混雑いたします。時間に余裕をみて、お早めにお出かけください。

駐車場案内図



一関文化センター

〒021-0884 岩手県一関市大手町2番16号
 (JR一ノ関駅西口より徒歩約7分、一関図書館隣り)

Tel: 0191-21-2121 / Mail: bunka@ichi-bun.com

開館時間=8:30-17:15

休館日=第3月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/29-1/3)